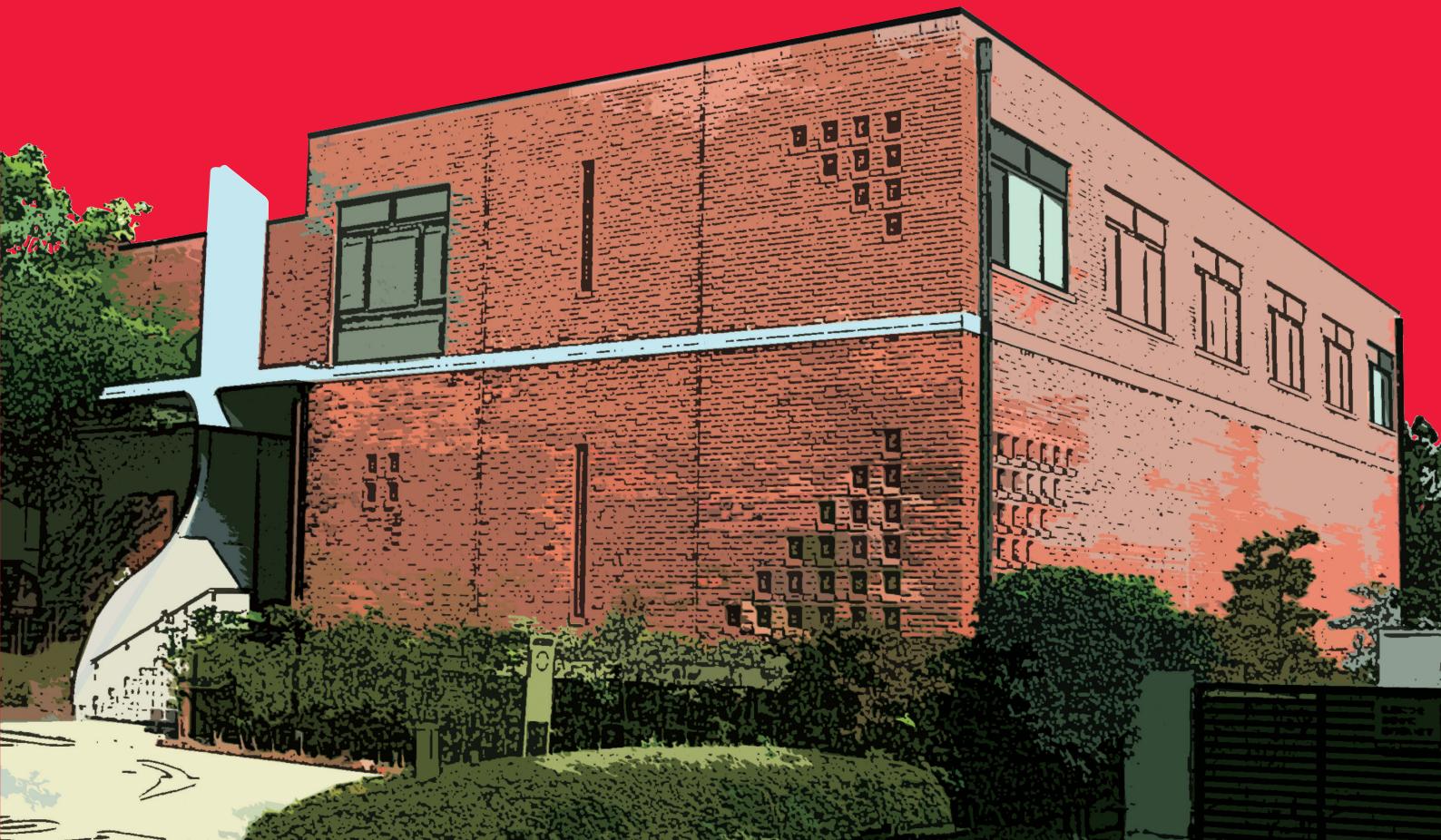




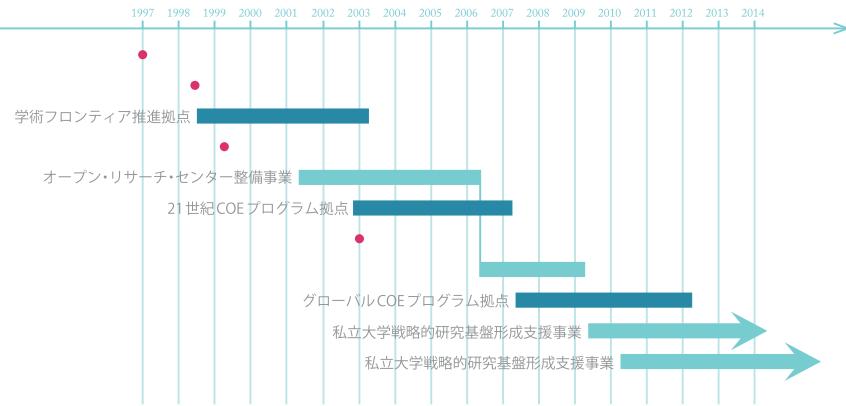
ART RESEARCH CENTER

立命館大学 アート・リサーチセンター



沿革

1997年	アート・リサーチセンター設置準備会を設置
1998年 6月	アート・リサーチセンター設置 文部科学省学術フロンティア推進拠点に採択
1999年 4月	アート・リサーチセンター施設の竣工
2001年 4月	文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業に採択
2002年 10月	文部科学省21世紀COEプログラムの拠点に採択
2003年 1月	第4回デジタルアーカイブ・アワード受賞
2006年 4月	文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業に採択
2007年 4月	文部科学省グローバルCOEプログラムの拠点に採択
2009年 4月	文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択
2010年 4月	文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択



アート・リサーチセンターの歩み

— ごあいさつにかえて —

立命館大学アート・リサーチセンター（ARC）は、1998年に、私たち人類が持つ文化を後世に伝承するために、芸術、芸能、技術、技能を中心とした有形・無形の人間文化の所産を、歴史的、社会的視点から研究・分析し、記録・整理・保存・発信することを目的として、設立されました。

外部資金によって運営される研究センターとして設置され、1998年度文部科学省学術フロンティア推進拠点（1998-2002年度）、2001年度文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業（2001-2008年度）、2002年度文部科学省21世紀COEプログラム（2002-2006年度）、2007年度文部科学省グローバルCOEプログラム（2007-2011年度）、2009年度・2010年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業などに採択され、日本文化に関する研究・教育を推進してまいりました。

立命館大学が蓄積してきた人文学、社会科学の総合的な研究力を基礎に、最先端の情報技術を利用し、芸能・演劇などの「時間芸術」の保存と利用、芸術創造の支援、芸術を市民

が共有し享受するための普及、芸術理解のための教育プログラムの開発などを行ってきました。研究・教育の特徴には、人文学と情報科学の連携・融合・統合によって行われる点と、大学院生やポストドクトラルフェローなどの若手研究者を巻き込んだプロジェクト研究が実施されている点があげられます。そして、開設されて以来、蓄積してきた浮世絵や絵画などの日本文化・芸術に関するデジタルアーカイブは、国内外の日本文化研究者の必須の研究資源となっています。

2011年4月より、時限的に設置された研究センターから、恒常的かつ経常的学内資金の支援を受ける研究所となりました。現在、学内研究者による研究プロジェクトを募集し、立命館大学における日本文化研究の活性化をも支援しています。

京都を中心に国際的な日本文化研究、デジタル・ヒューマニティーズの代表的な研究拠点として、今後も研究・教育活動を進めてまいりますので、引き続きのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

ARC CONCEPT

京都に位置する総合大学の研究所として、文理融合型の研究手法をとりながら、

- 1 京都を中心とした日本の芸術・文化
 - 2 無形文化や時間芸術のデジタルアーカイブ
 - 3 インタラクティブな新しい映像文化
- などの研究を特徴としています。

私たちは、アート研究の基盤の上に情報科学の成果を存分に入れながら、新しい情報文化コミュニティの形成を目指します。





アート・リサーチセンターの 様々な取り組み

当センターでは、様々な研究事業を中心に、若手研究者の育成・支援、芸術・文化の普及と教育などに積極的に取り組んでいます。

研究活動を行うだけでなく、その中で得た知識や考察、また、研究対象としての所蔵品を一般の方々にも公開し、日本の藝術・文化を広く知らしめる活動（公開セミナー、展覧会、シンポジウム、イベントなど）も行っています。

アート・リサーチセンターの主な所蔵資料

京都資料コレクション 江戸時代以降、京都は早くも日本の「観光地」としての地位を確立しました。文部科学省21世紀COEプログラム「京都アート・エンタテインメント創成研究」選定時以来、研究素材として、江戸時代以降の京都の名所や風景を描いた絵画や名所案内、地図を数多く収集しています。これらは、時間軸と地理情報を重層的に配置した京都バーチャルタイムスペリオシステムの中で、縦横にその変遷や異相を比べていく素材として利用できます。

京都名所絵データベース
<http://www.dh-jac.net/meisho/>



「新板 信田会稽夜討」
絵画・浮世絵データベース
<http://www.dh-jac.net/db/arcnishikie/default.htm>

浮世絵コレクション 動画や音声が記録できなかった時代、芸能や風俗などの無形文化は、紙の上に描かれて記録されてきました。とりわけ極彩色で、しかも精細な印刷技術で大量生産された浮世絵は、当時の世界でも類を見ない記録メディアであったと言えます。現在約10,000枚に上る浮世絵を所蔵しており、日本有数のコレクションに成長しました。歌舞伎を題材にした役者絵、能の舞台や道具類を描いた能画、京都を描いた風景画などに特長があります。歌舞伎関係では、一力茶屋や山科などを舞台にした「仮名手本忠臣蔵」に関するコレクションが充実しており、最吉の「討入り図」も当センターの所蔵品です。

藤井永観文庫データベース
<http://www.dh-jac.net/db11/eikan/search.htm>



「かるた遊び図」

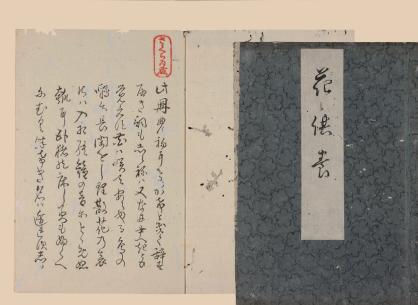
藤井永観文庫 藤井永観文庫とは、立命館大学文学部出身の故藤井孝昭氏(1913-1983)が生涯にわたって収集された美術作品などのコレクション名で、重要文化財5点、重要美術品2点が含まれています。氏の没後、作品が散逸することを憂慮されたご遺族が、1984年に財団を設立し、活動を続けてきましたが、財団解散にともない、所蔵品は故人ゆかりの立命館大学に寄贈されました。所蔵品は約420点ですが、宸翰・古筆・経巻・絵画・古典籍・衣裳裂など、内容は多彩です。宸翰は鎌倉時代後半の後深草天皇から幕末の孝明天皇まで20名の天皇、墨跡・古筆などは鎌倉・室町時代を中心しながら、公家・僧侶・武将・文人などの書跡が平安時代から明治時代まであります。経巻も平安から鎌倉時代が中心となっており、装飾経も含まれています。絵画は鎌倉時代の仏画や江戸時代の風俗画が主なものです。また古典籍には、密教関係史料が多くあり、衣裳裂は辯ヶ花染裂をはじめとする江戸時代のものです。

書籍閲覧システム
<http://www.dh-jac.net/db1/books/search.htm>



「春穂拆甲」

林美一コレクション 江戸時代の大衆文芸研究に大きな足跡を残した林美一氏のコレクションです。林氏が大映京都撮影所の社員時代に京都で数多くの資料を収集された縁により、京都へ里帰りしたものです。約2,200点に上る稀有な林コレクションの特長は、後期江戸文学にあり、曲亭馬琴の読本や合巻、人情本といった古典文学と近代文学との間の橋渡しを果した文学資料を豊富に含んでいることです。特に、絵本・漫画など、絵とテキストを併せて鑑賞する文学形態を研究する上では、欠くことのできない資料群となっています。また、生前の林氏が最も力を入れていた春本研究においても、他に類を見ない充実した春本コレクションを形成しています。



「花供養」

櫻井文庫 櫻井文庫とは、俳諧研究、とりわけ芭蕉研究で数々の重要な業績を上げられた故櫻井武次郎氏(1940-2007)の旧蔵本です。俳書だけでなく、俳諧研究や近世文学の研究に必要な周辺資料も数多く含まれます。立命館大学図書館には白楊荘文庫があり、文学部日本文学専攻には和田繁二郎文庫があります。また、図書館の西園寺文庫には近世和歌資料が蔵されており、これらと当センターの櫻井文庫を合わせると、立命館が古典・近代を通じての韻文資料の宝庫であることを再認識させられます。

並木鏡太郎コレクション 本コレクションは、マキノ映画出身の並木鏡太郎監督(本名:金田寅雄、1902-2001)が自伝的小説『京都花園天授ヶ丘 マキノ撮影所物語』を執筆する際に使用した文献を中心に、監督の句集、ベストテン受賞盾などを含む約80点の資料からなり、並木監督の助監督を務めた山際永三監督から寄贈されました。使用された頁にメモの挟み込みや書き込みが大量にあり、研究資料用に保存・活用しています。

施設案内



当センターは、無形文化・時間芸術の記録・保存に適した最新のデジタル映像撮影装置と映像アーカイブ作成装置を設置しています。また、それぞれの資料の特質に合わせた3種類の環境で保存・保管の出来る恒温恒湿の資料保管庫を設置しており、アーカイブされた資料を最適な方法で後世に伝えることが出来ます。



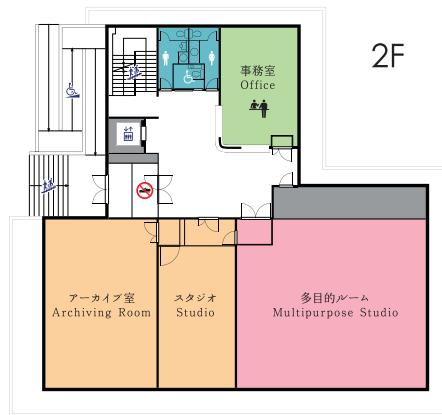
N
1F



1F 閲覧室



1F 資料保管庫



2F



2F 多目的ルーム



3F



3F プロジェクト室

1階では、様々な形態の資料を保管し、デジタルへの変換作業が行われています。デジタル化された資料は、2階で書誌情報などと共にアーカイブ化され、3階で行われる各研究に利用されています。また、モーションキャプチャなどのデジタル化設

備を有し、各種講演会やシンポジウム、さらには舞踊のステージにも対応できる多目的ルーム(2F)や、収蔵品の展示を行う閲覧室(1F)では、一般の方も参加可能な講演会やセミナー、展示会を不定期に行い、文化・芸術の普及に努めています。

立命館大学アート・リサーチセンター



〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

[TEL] 075-466-3411 (代表) [FAX] 075-466-3415

[受付時間] 9:30 ~ 17:00 ※土日祝、その他の休館日を除く

<http://www.arc.ritsumei.ac.jp>

[e-mail] arc-jimu@arc.ritsumei.ac.jp

